



JAPIC NEWS

<http://www.japic.or.jp>

31	JAPIC		
15	JAPIC		
KT	JAPIC		
		21	
		JAPIC	DI 10
			15 11
ADVICE ()2002[]	12
	DB 200	1	12
	No.151		13
			16
			17

《巻頭言》

医薬品情報 環境変化への対応

日本製薬団体連合会 安全性委員会前委員長
国立医薬品食品衛生研究所 トキシコゲノミクスプロジェクトサブリーダー

宮城島 利一

・ 医薬品情報を取り巻く環境

医薬品情報自体のコンテンツやテーマは大きな変化はしていないが、利用者の情報に対する価値観や活用方法が変化してきている。

例えば、日本薬学会のシンポジウムテーマに医薬品情報が採択されたのは 1965 年であり、その 37 年後の 2002 年の第 122 年会では、「社会に開かれた医薬品情報」、「医薬品の安全確保」のシンポジウムが開催された。JAPIC が財団法人として発足したのは 1972 年であり、1974 年に『日本医薬品集（医療用医薬品）』が発行され、現在でも貴重な情報源として活躍している。また、1990 年、『ファルマシア』（日本薬学会）では医薬品情報の特集を組んでおり、「臨床薬剤業務における医薬品情報」、「大学医療情報ネットワーク」、「医薬品情報データベース」等が紹介されている。以後多くの雑誌で同じような特集が組まれてきた。

医薬品情報の基本である添付文書は、1981 年及び 1997 年に医療関係者が理解しやすく使用しやすい視点から記載要領が改訂された。さらに 2001 年に開催された「医薬品情報提供にあり方に関する懇談会」では、情報量の急増、情報源の散在に起因する問題解決のため、添付文書情報等の情報を“階層化”することにより、情報の提供対象者ごとに情報の範囲、伝達手段等を整理することが必要と提言している。

一方、大きな変革をしているのは、情報処理と通信技術の分野である。情報処理として、コンピュータの能力と蓄積媒体の急速な進歩である。

コンピュータ開発の初期には、化学構造式は英数字で表現した WLN 方式で情報処理されており、化合物検索には有機化学者は見向きもせず、サーチャーのみ利用した。現在では、図形処理され、化学構造式そのもので入出力でき、化学反応式の検索等に有機化学者が利用するようになった。

また、通信技術が進歩し、特にインターネットが職場や家庭に爆発的に普及し、コンピュータの機種を乗り越えた全世界的な規模で情報が共有化され、その機能により情報伝達の即時性と網羅性が実現した。

ゲノム研究の進展により、有用な医薬品や新治療法の開発が期待され、人々の医療に対する考え方も大きく変わろうとしている。製薬企業は、ゲノム科学を始めとする先端技術

に注目している。

また、国民の医薬品情報に対する意識も大きく変化している。高齢化の進展等による生活習慣病の増加などによる疾病構造の変化やインフォームドコンセントの普及等に伴い、医療への関心の高まりと医薬品情報に対するニーズが増大している。

・ 医薬品情報を作る人・提供する人

インターネットの普及と検索エンジンの進歩により、医薬品情報のデータベース分野においても無料情報提供が本格化している。また、電子ジャーナルも急速に発展し、さらに専門的であり利用者も限定されている医薬品情報も、伝統あるコンテンツと新規のコンテンツの間に何ら価値の相異もなくなってきており、付加価値を付けたサービスが難しい時代に突入した。

今までは電子化された情報は「データベース」であると考えられていたが、現在は、「メディア」「通信」へと変革し、今後はデータベースからナレッジベースの構築を目指す時代である。

商業的に医薬品情報を作る人にとって、インターネットの普及は、利用者が検索するのを待っている受動的な時代から、利用者が求めているさまざまな情報を積極的に提示・提供する時代になってきた。医薬品情報の絶対量が年々増加しているが、利用者の立場で価値ある情報とは何か、また利用者が興味を引きそうな情報とは何かを常に考え、さらに利用者の焦点を絞った情報の提供を行う等の工夫することがこれまで以上に重要である。

・ 医薬品情報を受け取る人

情報の価値は、氾濫する情報量とは関係なくその情報を受け取る人に依存する。利用者（専門家）が膨大な情報量の中から、高品質な情報源を効率的に入手する方法を探索し、短時間に評価・選別能力を有する知識と判断力が問われる時代である。是非、「ほしいものだけを短時間で検索できる技術と知識」を備えていただきたい。

製薬企業や医療関係者の医薬品の安全対策への取り組みとして、氾濫する情報から、常に大事な情報が潜んでいないかを嗅ぎつけることがリスク/クライシスマネージメントの観点から重要である。従来、個々の医薬品の効能・効果、医療現場での使用実態等の違いから、個々の事例毎に対応がとられている。有害事象の重篤度や因果関係の評価に関する情報に対して、個々の事例で得られた教訓を他の事例に十分に生かすようなアクションが大事である。特に薬事・PMS関係者は、レギュレーションの面からでなく、情報の背景を科学的に評価・分析し、判断するように心がける必要がある。

一方、製薬企業は新医薬品の上市後、適正使用を推進するため多くの情報を様々な手段で医療関係者に提供している。しかしながら、特に情報を周知徹底すべき「緊急安全性情報」を取り上げてみても、ほぼ同じ内容で2回以上発行された医薬品もある。今後ゲノム科学等の進展に伴い、切れ味のよい医薬品が出現してくる。伝達すべき情報が伝達されるべき人に伝わっていない。また伝わっていてもその人々の行動に結びついていないという課題についても、関係者全体で情報の流通過程等を真剣に検討すべきと考える。



「第 31 回 JAPIC 情報基礎講座」の開催予告

(旧名称「DIのための情報基礎講座」)

日 時 : 平成 15 年 3 月 5 日(水)~7 日(金) 3 日間(毎日 10:00~16:00)
場 所 : 日本薬学会長井記念ホール 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
テ ー マ : 薬事法改正と医薬情報の提供(仮題)

なお、3 日間の予定プログラム等の詳細につきましては別途ご案内致します。

(事務局 TEL.03-5466-1812)



休業のお知らせ

年末年始は次の通り休業とさせていただきます。



平成 14 年 12 月 28 日(土) ~ 平成 15 年 1 月 5 日(日)



「平成 15 年度事業計画基本方針案検討理事会」報告概要

去る 11 月 29 日(金)、平成 15 年度事業計画基本方針案検討理事会(第 92 回理事会)が開催されました。議題は以下の通りであり、すべて承認・議決されました。

主なものとして、評議員の交代があり、新たに 5 名の方が評議員に選出されました。

そのほか、JAPIC データ利用の普及を図ることを目的に設置されました「データ利用会員検討委員会」(委員長：高岡庸児理事，エーザイ株式会社常務執行役員 薬事・医薬情報担当)から、新たに「特定データ利用会員制度」を新設することについて提案があり、了承されました。

なお、平成 14 年度上期一般事業・収支状況については、順調に推移していることをご報告させて頂きました。

「第 92 回理事会」 11 月 29 日(金) 16:00～17:20，当センター3 階会議室

《主な議案項目》

1. 評議員の交代 (敬称略)
(ご 退 任)
村野 敦 (前 住友製薬株式会社 常務取締役)
中野 恭平 (前 万有製薬株式会社 取締役営業本部副本部長)
飯田 晋一郎 (三菱ウェルファーマ株式会社 取締役相談役)
千田 徳子 (前 社団法人日本看護協会 副会長)
ピーター・レッシュャー(前 アベンティス ファーマ株式会社 代表取締役会長兼社長)
(ご 新 任)
石墨 紀久夫 (住友製薬株式会社 常務取締役研究本部長)
風間 安廣 (万有製薬株式会社 取締役営業本部副本部長)
小堀 暉男 (三菱ウェルファーマ株式会社 代表取締役社長)
古橋 美智子 (社団法人日本看護協会 副会長)
ジェームズ・ミッチャム(アベンティス ファーマ株式会社 代表取締役会長兼社長)
2. 維持会員・賛助会員の異動承認
3. 平成 14 年度上期一般事業・収支状況報告(4～10 月)
4. 平成 15 年度事業計画・収支予算計画策定の基本方針
5. データ利用会員検討委員会及び添付文書情報検討委員会報告
6. その他

(事務局 TEL.03-5466-1811)

「JAPIC ユーザ会」開かる！

平成 14 年度第 2 回目の「JAPIC ユーザ会」を 12 月 3 日大阪薬業年金会館で、また、12 月 10 日に日本薬学会会長井記念館ホールで開催いたしました。参加者は大阪会場 47 名、東京会場では 144 名と、大勢の方が参加されました。

前半は「JAPIC サービスの概要」、コーヒブレイクを挟んで後半「JAPIC データベースの新しい機能、その他の新サービスのご紹介」と、2 部構成で説明を行いました。

また、今回初めての試みでしたが、会員の方のご協力を得て「JAPIC サービスの利用事例」を紹介していただきました。特に東邦薬品株式会社の寺門・南木さんによる「JAPIC の各種添付文書関連情報を末端ユーザへの情報提供業務にどう活用しているか、どんな欠点がありどんな注意をすべきか」などプロジェクターを使った発表は、一方的な JAPIC からの話ばかりではなく、実際、会員の方が利用した上でのお話だったので、大変好評でした。

会員の方からいただいたご要望の一部、「日本医薬品集」への化学構造式の記載希望、薬事法改正に伴う「生物由来製品」「特定生物由来製品」に対応する情報収集希望等に対し、JAPIC 側から「何らかの形で、積極的に対応したい」と発言がありました。

JAPIC のサービスが本当に会員の方の役に立っているか、信頼できる情報サービスをお届けしているのか、など、JAPIC の責任の重さをズッシリ再認識する機会でもありました。今後も会員のみなさまの意見を伺い、みなさまから本当に望まれるサービス提供ができるよう努力いたします。

なお、アンケートをとらせていただきましたが、ご要望などのアンケート結果や JAPIC の対応や計画をまとめて、後日ご報告の予定です。

(事務局 TEL.03-5466-1812)



創 立 前 の 頃 の 話

固武技術士事務所 固 武 龍 雄
(元 第一製薬)

JAPIC が創立 30 周年を迎えた。まことにおめでたいことだ。この 30 年間の会長、理事長をはじめとする JAPIC の方々のご努力に敬意を表したい。

財団法人の JAPIC は 30 年前に創立されたが、実はその前に 2 年間、製薬企業 25 社で作り上げた任意団体の JAPIC の時代があった。この任意団体 JAPIC の創立を企画・検討し、成立までこぎつけた製薬協の準備委員会に出席していた私としては、JAPIC は創立 32 年なんだという気がしてくる。この任意団体 JAPIC 創立の頃に、ある銀行の人が私のところにやってきて、是非、自分の銀行を JAPIC の取引銀行にしてくれというので驚いた。「私のような下の者の所に来ても無駄だ。もっと上の人の所へ行かなければ駄目だ」と言ったのだが、勿論その人は上の方にも働きかけていたのだろう。委員長の第一製薬(株)石黒社長の所にきたついでに委員の私の所にも寄ってみたのかもしれない。企業の技術的な仕事だけをしてはわからない、こんな経験もさせてもらった。

日本医薬情報センターではどんな仕事をしたらよいかを論じているときに、ある委員の方がこの情報センターの英文名はこれこれ、その略称は JAPIC と提案されたので、気の早い話だなと思ってしまったが、これが認められて今に続いている。任意団体の創立当時の場所は日本橋の本栄ビルにあり、はじめはまだ図書や机、椅子、什器などほとんどなくてガランとしていたことを思い出す。各製薬企業の WG (Working Group) の人達が久保所長(後に理事長、会長)を中心に毎月 1 回会議をしていた。私もこの WG の一員となって参加し、3 ヶ月に 1 度は関西で会議をした。外国文献なら Index Medicus、Excerpta Medica、RINGDOC (現 Derwent Drug File) などがあるが、日本国内の医薬文献の調査に良いツールがないということで、まずは国内医薬文献のデータベースを作ろうということになった。そして収載する内容はまずは安全性に関する文献を主とすることになった。当時すでに RINGDOC でのコンピュータ検索を実施していた企業もあったが、25 社のなかにはまだコンピュータでの検索はしたことがなく、そんなシステムでは使えないという企業もあったので、仕方なく IBM パンチカードでシステム作りをし、セクターでの検索ができるようにした。これを JAPIC カードと称し、後にこのパンチ孔のイメージを基にコンピュータで検索できるようになり、JAPICDOC の基となった。ちなみに当時の日本の RINGDOC 会員は 17 社であった。

この JAPIC カードにどの項目を盛り込むかを検討した。JAPIC カードには 80 カラムしかないで、なんでも盛り込むことはできない。医薬品名は一般名と商品名(または文献に記載された記載名)の両方を入れることになったが、あまり場所を取れないので各々 10 文字までとし、それ以上のものは切り捨てることになった。そのため、後にコンピュータ化したときに、当時のデータは 10 文字までしか検索できないことになった。書誌的事項は抄録とともに裏面に印刷するので、パンチ孔には入れないことになった。この WG

には参加していない製薬企業の情報関係者からは何故コンピュータで検索するシステムにしないのかと文句を喰ったこともある。

任意団体創立の1年後である1971年にJAPIC主催の欧米医薬情報視察団が欧米の情報機関を視察して廻った。幸いにも私もこの一員となることができた。これは私にとっては初めての欧米旅行だったので、特に感慨深いものがあり、見るものみな珍しく、やたらとカメラのシャッターをきった。久保団長が「私は外遊するときにはいつも時計を2つ持って行く。1つは現地時間、1つは日本時間だ」とおっしゃっていたことを思い出す。ある訪問先で、とても良い資料があるといってRINGDOCのIndex Cardを見せてくれた。そのカードにはRINGDOCとは書いてないが見るとすぐにわかるので、私がRINGDOCと言うと、なんだ知っているのかと一寸がっかりした顔をした。まだ日本はその程度と思われていたのだろう。CASを訪問したときに、私はうっかりと砂糖のような袋に入っていた塩をコーヒーの中に入れ、塩からいコーヒーを我慢して飲んだことがあった。Excerpta Medicaでは訪問後、さらに長山部長（後に常任理事、顧問）などの有志数人と私も残り、先方と更にディスカッションをして、さすがに疲れてホテルに帰ってきたことを思い出す。先方でご馳走してくださり、その中のニシンがおいしかったのですぐに平らげてしまった。前夜、アムステルダムの中街の屋台で見かけたが、勇気がなくて食べられなかったものだ。あまりうまい、うまいというもので、我々のテーブルだけは新しくもう一皿追加があった。

当時の旅行は1ドル360円の時代だった。現在はこれに限らず、情報の世界もすっかり代わってしまった。30年という歳月を感じる。久保さんは喜寿のお祝いをしたときに米寿もして欲しいとおっしゃったが、それを待たずに亡くなられた。ご冥福をお祈りいたします。



KT氏のJAPIC応援メッセージ

ほんまかいや、JAPICが30周年迎えるとは。ホンマやったら皆ハンに頭を下げまっせ～。

創業の時知っちょるけど、日本の製薬業界云うもんはなア、みたいな奴の集まりで、顔見るとお互いに吠えよる。せやけど人（外国企業）を見たら尻尾振って近寄りよる。どうせ総論賛成しよるけど、金出さへんと思とった。金に苦労したやろうナア～。その上、抄録する人出せ云うたら、「そんな人の余裕あらへん」というのがエエとこや。久保はんもよう頑張りはったなア～。せやけど、も一つ“文献学”知りはらへんやった様に思うデ～。

せやけど、まア、幸いなことに外国から“抄録文献学”なるもんが上陸して、なんや、あちこちの知識を摘み喰いして、分類やカードを作りはったなア～。

パンチカードに抄録を印刷したのはエーけど、パンチ孔で重要な数字が消えてしもうたこともあったなア～。

「日本社会薬学会 第21年会」に参加して

去る11月9～10日の2日間にわたって東京薬科大学のキャンパスで、表記学会が開催され、今回はじめて発表参加した。

テーマは“情報化社会のヘルスケア教育 - 薬学の役割”で、学校教育の中における薬学教育が取り上げられており、9日のシンポジウム“青少年の薬学教育”では、「学校教育における薬の実習の意義」石川哲也（神戸大）、「静岡県の小・中・高校生に対する薬学講座」稲葉利和（静岡県環境森林部）、「青少年の健康教育と学校薬剤師」橋本 毅（岐阜県学校薬剤師）、「くすり」情報の提供を通して窺う若年の薬学教育」海老原 格（日本RAD-AR協議会）、「小学校における健康教育とその評価」川崎 知子（日野市立東光寺小学校）、「薬系大学の試みと今後の活動」加藤 哲太（東京薬科大学）の発表があり、総合討論を含め活発な意見交換が行われた。

医薬分業が進むにしたがい、医薬品の適正使用を考えて行く上には、学校教育の中で“くすりの役割”、“くすりの正しい使い方”等を教えることは重要なことと思われる。

10日はワークショップ(1)(2)で“インターネットを使った医薬品情報の引き出し方”を小杉教授がデモンストレーション解説し、丁寧な説明で年配の初心者(?)らしい参加者も熱心に受講していた。

ランチョンセミナーはお弁当を食べながらの気軽なセミナーで、“不思議の国の医療のはなし”として田辺 功（朝日新聞）がジャーナリストらしい切り口で、医療制度の矛盾を突いた話をされ、新鮮に聞けた。

シンポジウム“情報化社会とセルフメディケーション”では、「一般用医薬品とセルフメディケーション」堀江 秀明（東京都薬剤師会立川支部）、「セルフメディケーションにおける薬剤師の役割 - アメリカの薬剤師の立場から - 」Donald T. Kishi（カルフォルニア大薬学部）、「卸における医薬品情報活動 - 問い合わせ業務からみたセルフメディケーションの動き - 」岸本 紀子（福神）、「一般用医薬品の情報提供」河野 光男（JAPIC）、「グループウェアを利用した地域薬剤師支援システム」小杉 義幸（東京薬科大学薬学部）と、アメリカからの演者を含め、それぞれの立場から発表した。フロアとの意見交換では、「みんなの頭の中にある“セルフメディケーション”の捉え方が異なるのではないか」という意見が出たり、活発な討議が行われた。

一般発表では、JAPICとの共同研究として“一般用医薬品における医薬品情報提供システムの構築”があり、関心を呼んだようであった。発表の多くは「かかりつけ薬局」や、「服薬指導」、「おくすり手帳」に関するものであった。

ポスターセッションでは、学校薬剤師関連、薬の学校教育関連が多く展示されていた。医薬品情報を受け取る末端がどのような情報を欲しているかなどを知るにはよい機会であった。また、「司法薬学」という「医療訴訟から得られる教訓を薬学にフィードバックし、従来のリスクマネジメントに司法的要素を加味し、社会の実学として薬学の向上を図ることを目指した学問領域」という新しい学問領域があることを知ったことも収穫であった。

（情報サービス部門 河野 光男）



手のひらサイズの電子医薬品情報「JAPIC ポケット DI」

このたび、医薬品の添付文書情報を手軽に検索いただけるよう手のひらサイズ電子医薬品情報「JAPIC ポケット DI」を開発いたしました。キーワードを入力し、該当した情報から、効能／効果、副作用など知りたい情報をスピーディに表示できます。また、添付文書データを常時更新しているため、医療の現場で、いつでも最新の情報にアクセスできます。現在、最終調整を行っており、平成 15 年 2 月末に正式発売予定です。

(情報サービス部門 TEL.03-5466-1837)

【検索画面イメージ】



知りたい情報のキーワードを入力します。キーワードには、医薬品名、効能／効果、副作用などが自由に指定できます。

添付文書情報データベースからヒットした件数が表示されます。

選択した医薬品の添付文書情報、薬価情報から、閲覧したい情報を選択できます。

選択した情報が表示されます。

「医薬関連情報」月刊 採択雑誌・資料 - 海外 15 誌のご案内 -

先日の「JAPIC ユーザ会」におきまして JAPIC データベース「ADVISE」(医薬品副作用文献情報)に“海外 15 誌”から副作用に関する情報を採択している旨のご紹介をさせていただきました。これまで“海外 15 誌”については説明会の折に、何度か説明させていただいておりますが、改めて本誌上でご紹介をいたします。

「医薬関連情報」月刊および速報(週刊 Fax 送信)の<副作用情報>は下記 15 誌から、「医薬関連情報」月刊の<有効性に関する情報>は下記 4 誌からの情報をそれぞれ掲載しています。また、下記 15 誌からの情報を「ADVISE」(医薬品副作用文献情報)に収載しており、今年度中に「JAPICDOC」にも加えていく予定です。

<副作用情報> (15 誌)

N. Engl. J. Med.	Clin. Pharmacol. Ther.
JAMA	Bulletin from SADRAC
Lancet	CSM Current Problems in Pharmacovigilance
Br. Med. J.	Australian Adverse Drug Reactions Bulletin
Ann. Pharmacother.	Adverse Drug Reactions Bulletin
Eur. J. Clin. Pharmacol.	Canadian Adverse Drug Reaction Newsletter
Br. J. Clin. Pharmacol.	MMWR
J. Clin. Pharmacol.	

<有効性に関する情報> (4 誌)

N. Engl. J. Med.
JAMA
Lancet
Br. Med. J.

(医薬文献部門 TEL.03-5466-1822)

「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集)2002[]の発行のお知らせ

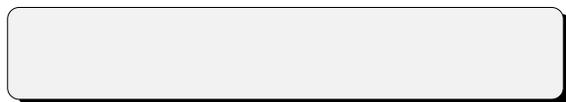
「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集)2002[]を12月20日に発行致しました。
概要は下記の通りです。

- 1.採択誌 医学・薬学関連国内雑誌 327誌
- 2.採択範囲 2002年1月～6月の6ヵ月間に入手した採択誌
- 3.採択基準 副作用の臨床報告文献、臨床で生じた副作用の記述のある原著文献
(1,555件)
- 4.索引 医薬品名索引、症状別索引
- 5.内容 薬効別副作用一覧編、抄録集編の2分冊

「ADVICE」(医薬品副作用文献情報集)2002[]
< 薬効別副作用一覧編 > < 抄録集編 >
定価 26,250 円(本体 25,000 円)

「ADVICE」2002[]からは、表紙のデザインを一部変更し、配布の継続を希望された会員の方々に発送させていただきました。

(医薬文献部門 TEL.03-5466-1822)



「日本医薬品集 DB 2003 年 1 月版」の発行のお知らせ

10月発行の「日本医薬品集 DB 2002 年 10 月版」の第1回データ更新版として、1月下旬に「日本医薬品集 DB 2003 年 1 月版」〔CD-ROM〕を発行いたします。

今回の1月版では、「医療薬日本医薬品集 2003」(第26版)、「一般薬日本医薬品集 2002-03」(第13版)を含む4冊の書籍データに、医療薬の12月までの添付文書改訂情報、12月6日収載の新薬、12月13日収載の報告品目(一部除く)等を追加しております。

(添付文書部門 日本医薬品集担当 TEL.03-5466-1825)



◀ 新着資料案内 - 平成 14 年 11 月受け入れ ▶

この情報は JAPIC ホームページ <<http://www.japic.or.jp>>でもご覧頂けます。

お問い合わせは図書館までお願いします。複写をご希望の方は所定の申込用紙でお申し込み下さい。

電話番号 03-5466-1827 Fax No.03-5466-1818

- 図 書 -

1. Compendium of self-care products
- The Canadian reference on OTCs 2002-3
Canadian Pharmacists Association 2002 622p ¥12,030
カナダ薬剤師会発行の一般用医薬品集。2001 年まで Compendium of nonprescription products の書名で発行されていた。
2. 動脈硬化性疾患診療ガイドライン 2002 年版
日本動脈硬化学会 2002 55p
3. ガイドブック厚生労働省 平成 14 年 8 月
日本厚生協会 2002 267p ¥1,800
4. Gelbe liste pharmindex 4.Quartal 2002
MediMedia 2002 569p ¥9,900
ドイツの医療用医薬品集。年 4 回発行されるが、これはその第 4 期分のもの。
5. Gelbe liste pharmindex 2003 Phytopharmaka, pflanzliche Kombinationspräparate und Homöopathika
MediMedia 2002 439p
ドイツの医療用医薬品集。薬用植物とホメオパシー関連製品も収載してある。
6. 現代用語の基礎知識 2003
自由国民社 2003 1,423p ¥2,333
7. Handbuch Reha-und vorsorge einrichtungen 2003
MediMedia 2002 1,478p
ドイツのリハビリテーション施設についてのハンドブック。

8. 医療用医薬品品質情報集（平成14年10月版）付録 日本薬局方外医薬品規格第三部
厚生労働省医薬局審査管理課 2002 137p
9. JIS 図書館パフォーマンス指標 2002
日本工業標準調査会 標準部会 日本規格協会 2002 48p
10. 厚生科学研究 医薬品等国際ハーモナイゼーション促進研究
平成12年度研究業績報告書 平成10年度～平成12年度総括研究報告書
上田慶二 主任研究者 2001 159p
11. 厚生科学研究費補助金 医薬安全総合研究事業 国際的動向を踏まえた
医薬品等の新たな有効性及び安全性の評価に関する研究
上田慶二 主任研究者 2002 141p
12. 日本病院薬剤師会会員名簿 2003
日本病院薬剤師会 薬事新報社 2002 812p ¥17,850
13. 日本薬局方外医薬品規格 2002
じほう 2002 711p ¥17,000
14. オレンジブック 総合版'02
薬事日報社 2002 205p ¥5,000
15. Praxis Partner 2002 Herbstkatalog Arzt-und Laborbedarf
MediMedia 2002 523p
ドイツの医療用具、衛生用品、病院施設用品のカatalog集。
16. 社会医学事典
高野健人 他編 朝倉書店 2002 410p ¥13,000
17. 写真でわかる処方薬事典
郷龍一 編 ナツメ社 2002 1,151p ¥4,800
18. 職員録 平成15年版（上）（下）
財務省印刷局 2002 ¥21,000（2冊）
19. Side effects of drugs annual 25 -A worldwide yearly survey of new data
and trends in adverse drug reactions
Aronson, J.K., ed. Elsevier Science B.V. 2002 645p ¥38,460
医薬品の有害作用及び相互作用に関する世界中の研究報告をまとめた Annual
版で Up-date に対応する目的で刊行されている。

20. SMO・医療機関ネットワーク要覧 <速報版>
シードプランニング 2002 283p ¥45,000
21. 薬事関係法規及び薬事関係制度 テキスト 2002 年版
薬事衛生研究会 薬事日報社 2002 368p ¥2,500
22. 全国大学職員録 国公立大学編 平成 14 年版
広潤社 2002 1,661p
23. 全国大学職員録 私立大学編 平成 14 年版
広潤社 2002 2,015p ¥33,800(セット)

- 厚生労働省・製薬団体等資料 -

1. 医薬品の使用上の注意の改訂等について 平成 14 年 11 月 7 日
厚生労働省医薬局 2002 3p
2. 「化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律の運用について」の一部
改正等について 平成 14 年 12 月 2 日
厚生労働省医薬局 他連名 2002 3p
3. 緊急安全性情報 平成 14 年 11 月 (02-05)
藤沢薬品工業 2002 4p

- その他 -

1. 協会のしおり 平成 14 年度版
2002 46p
2. 国際協力事業団年報 2002
2002 231p
3. (財)てんかん治療研究振興財団 研究年報 第 14 集 2002
2002 234p
4. 写真で見る 100 年の歩み 明治薬科大学 100 年史
2002 155p





心配されておりました 3 月さらに 6 月の経済危機は免れましたが、依然として政治・経済面において低迷、混迷が続いた 1 年であったと思います。その中であって 12 月 10 日、小柴昌俊氏と田中耕一氏が揃ってノーベル賞を授賞されたことは今年の締めくくりに値する明るいニュースであったと思います。

薬業界における上半期決算報告では、各企業の自助努力により増収基調のところが多かったことも少しホッとさせる材料であったと思われます。

薬業界の多くの企業をはじめ JAPIC を支えて下さっております会員の皆様のお陰をもちまして、JAPIC の上半期事業計画および収支決算のほうも順調に推移しております。これらにつきましては 11 月 29 日の理事会で承認されました。

平成 14 年のこの 1 年を振り返り、JAPIC の重大（10 大）ニュースを選んで、今年の締めとさせていただきます。

- 1．上田慶二会長、首藤紘一理事長新任により、JAPIC 新体制の発足
- 2．創立 30 周年を記念して講演会・パーティ挙行、30 周年記念誌発行
- 3．顧客重視を基調とした広報活動推進、JAPIC ユーザ会等の促進
- 4．適正人員検討委員会により時間外勤務等の見直し実施
- 5．開発ビジョン委員会により来期事業計画の企画推進
- 6．部門間業務効率化のための新請求システム導入・構築が完了
- 7．添付文書の活用・加工のための新システム構築が完了
- 8．医薬品の適正使用支援システム「ファルマ・アシスト」の普及・発売開始
- 9．利便性を指向した「JAPIC ポケット DI」（添付文書情報）の開発
- 10．JAPIC-Q、JAPIC Daily Mail (JDM) の普及拡大と JDM の厚労省通知への採用

この 1 年間、JAPIC の運営からはじまり情報の提供、各種サービスなどに対して会員の皆様からのご支援、ご協力、ご指導を数多く賜りました。ここに深くお礼申し上げます。来年も一層のご支援、ご協力、ご指導をお願い申し上げます。どうか、よいお年をお迎えください。

(K.M)





- ・平成14年12月1日から12月31日の期間に提供しました情報は次の通りです。
- ・出版物がお手許に届いていない場合は、
当センター事務局業務担当（TEL.03-5466-1812）にお問い合わせ下さい。

情 報 提 供 一 覧	発行日等
<出 版 物 等>	
1. 「医薬関連情報」12月号	12月20日
2. 「Regulations View」No.88	12月20日
3. 「JAPIC CONTENTS」No.1532～1535	毎週月曜日
4. 「国内医薬品添付文書情報」No.201	12月末予定
5. 「日本医薬文献抄録集」02シリーズ版（8）	12月末予定
6. 「医薬品副作用文献速報」1月号	12月末予定
7. 「JAPIC NEWS」No.225	12月20日
8. 「ADVICE」（医薬品副作用文献情報集）2002 []	12月20日
<速報サービス>	
1. 「各国副作用関連情報誌のコンテンツ速報FAXサービス」	随 時
2. 「医薬関連情報 速報FAXサービス」No.366～369	毎 週
3. 「JAPIC-Q（医薬文献・学会情報速報サービス）」	毎 週
4. 「JAPIC Daily Mail（外国政府等の医薬品・医療用具の安全性に関する措置情報サービス）」No.389～406	毎 日

<p style="text-align: center;">データベース一覧</p> <p style="text-align: center;">1～7のデータベースのメンテナンス状況はJIPホームページ (http://Infostream.jip.co.jp/)でもご覧いただけます。</p>	更新日
<JIP e-InfoStreamから提供>	
1. 「JAPICDOC速報版（日本医薬文献抄録速報版）」	12月 9日
2. 「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	12月 9日
3. 「ADVISE（医薬品副作用文献情報）」	12月 5日
4. 「MMPLAN（学会開催予定）」	12月 5日
5. 「SOCIE（医薬関連学会演題情報）」	12月 9日
6. 「NewPINS（添付文書情報）」（月2回更新）	12月 1日 12月18日
7. 「SHOUNIN（承認品目情報）」	12月11日
<JST JOISから提供>	
「JAPICDOC（日本医薬文献抄録）」	12月中旬

当センターが提供する情報を使用する場合は、著作権の問題がありますので、その都度事前に当センター事務局業務担当（TEL.03 - 5466 - 1812）を通じて許諾を得てください。

===== 財団法人 日本医薬情報センター
 禁無断転載 〒150-0002 東京都渋谷区渋谷 2-12-15
 JAPIC NEWS 1984.4.27 No.1 発行 長井記念館 3階
 毎月1回(最終金曜日)発行 TEL 03(5466)1811 FAX 03(5466)1814